国際協力、国際交流のパートナーとして

対　談

国際協力事業団（JICA）北海道国際センター（札幌）
総務課長　千　坂　平　通

社団法人 北方圏センター
国際協力部長　下斗米　哲　明

司　会

社団法人 北方圏センター　出版部

（司　会）　北海道国際センターは開設後５年が経過しましたが、まだまだ道民に知られていない面もあります。この対談を通して読者の皆さんにご紹介したいと思います。まず、北海道国際センターの概要やそこでのJICAの活動について、お話しください。

（千　坂）　司会者からもお話があったように、JICA札幌センターは帯広センターとともに平成８年にオープンしましたが、未だセンターの知名度や当センターで何をやっているか、地域の方々を含めご理解を頂いているかどうか不明な点があります。やはり、私どもは広報は重要な仕事であると再認識するとともに、センターで一緒に働いている北方圏センター、日本国際協力センターの方々と連携し、センターで働く全員がODAの広報マン、ウーマンとして情報発信出来るよう努力することが必要です。従って、研修員受入機関の講師の先生や研修監理員や日本語の先生方からのコメントも広報の重要な要素となるので、これらを『であい』に取り上げていくのもひとつの考えでしょう。

先般JICA本部広報課が実施した調査によると、国際協力事業団（JICA）の名前は３分の２の人が知っているが、その業務内容をきちっと把握している人は全体の５％というショッキングな結果が出ました。本部広報課もこの点を踏まえ市民に分かりやすい広報を目指し、パンフレットも従来より分かりやすく事業毎に編集したり、中高校向けにビデオを作成する等一般市民に理解してもらうことを主眼に置いています。

ところで、JICAの国内事業の大きな柱である研修員受け入れは、開発途上国政府の中枢を担う行政官、技術者を日本に招き、北海道内にある優れた道や市の研究機関等に受け入れて頂き、彼等が必要とする技術研修の成果品を持ち帰りその国の発展に寄与することを目的としています。既に96ヵ国2,500名以上の研修員を受け入れています。研修員の日本滞在中の生活を快適なものとするため日々研鑽されている北方圏センター、並びに研修員受入先の関係者の方々に紙面を借りて感謝申し上げます。

平成13年度　JICA研修「都市型水質汚濁検査技術」コースのフィールドワーク
（札幌市豊平区精進川にて）

（司　会）　北海道国際センターにおける北方圏センターの役割は、どのようなものですか。

（下斗米）　まず第１に、北海道国際センター（札幌・帯広）の平成８年の開設当初よりJICAからセンターの管理運営を委託されていることです。第２に、JICAの研修コースの一部を受託して研修員の受入れと研修実施に関する諸調整を行っています。第３に、国際センターに受入れをした研修員に対して、まず、研修期間中の日常生活や研修に必要な基礎的知識を身に付けてもらったり、研修や日本滞在中の生活をスムーズに送れるように、また、日本を理解してもらうために、講師を招いて日本の事情についての基礎的な知識を教授するなど、JICAから受託した研修付帯業務である「ブリーフィング」や「オリエンテーション」を実施しています。また、日本語の集中講習や応用講習なども行っています。さらに、研修員が、気候、言語、習慣等の異なる環境で、心身の健康を維持し、快適な日常生活を送れるよう、スポーツ、ツアーなどの各種のレクリエーション行事や、着付け、華道、茶道、書道等の教室や初釜、雛人形、五月人形の展示などによる日本伝統文化の紹介、ホームステイ・ホームビジットや夏祭り、盆踊り、運動会などへの参加による地域の方々との交流事業などの福利厚生事業を行っています。

（司　会）　JICAの大きな事業の柱として、開発途上国から研修員を受け

入れていることは、今までの話の中でわかりましたが、あとどのような事業を行っているのでしょうか。

（千　坂）　当センター事業のもうひとつの柱として、青年海外協力隊やシニア・ボランティア、日系ボランティア等の募集、啓発活動があります。現在協力隊員として北海道の146名が54ヵ国で活躍中であり、この数値は全国レベルでトップ５に入っています。

（司　会）　北海道も研修員等を受け入れていますが、具体的にどのようなものですか。

（下斗米）　北海道国際センターの地元利用として、北方圏センターでは、北海道から「北海道海外技術研修員受入事業」、「サハリン北海道人会子弟等技術研修生受入事業」、「自治体職員協力交流事業」を受託しています。

「北海道海外技術研修員受入事業」は、開発途上国から研修員を受け入れ、必要な技術の習得と道民等との交流を通じて、研修員の出身国の経済開発と国際的友好関係の増進に貢献しうる人材の養成が目的で、昭和52年度から実施されており、研修期間は約10ヵ月間です。「サハリン北海道人会子弟等技術研修生受入事業」は、平成５年度から実施されており、研修期間は約10ヵ月です。「自治体職員協力交流事業」は、海外の地方自治体職員を研修員として受け入れるもので、北海道の行政事務や技術を習得してもらい帰国後にそれぞれの国の人づくりや地域の発展に役立ててもらうことを目的として、平成８年度から実施されており、研修期間は約７ヵ月間です。

平成13年度の道研修員等は、海外技術研修員が13名、サハリン研修生が２名、自治体職員研修員が１名の合わせて16名を受け入れています。出身国としては、中南米が多く、次いで中国、アジア、ロシアの順であり、年齢は、平均すると27歳とかなり若いです。研修は、北海道の特性を生かした農業、観光（ホテル、旅行会社）、建築土木の研修や、道立の医科大学や教育機関などへの医療、保健、福祉の研修など多岐にわたっています。また、自治体職員の研修は、中国から受け入れていますが、中国では近代化の副産物として環境問題が深刻なことから北海道の環境政策全般について研修を受けています。北海道から受託した研修員等の受入は、まず、JICAの研修員と同じく「ブリーフィング」、「オリエンテーション」を実施し、次いで研修期間が長期にわたるため、１ヵ月間の日本語集中研修を受けた後、専門研修として各研修実施機関で研修を受けるとともに、１～２ヵ月間の夜間の日本語研修を行っています。

北海道受け入れの全研修員と
ボランティアメンバーとの親善ボーリング大会で

（司　会）　今後、国際協力、国際理解のために、どのようなことに力点を置いていこうと考えていますか。

（千　坂）　最近、当センターが最も力を入れているのが、地域リソース調査と開発教育の二つです。前者は北海道地域振興の秘策を探るため、農業を主体とした池田町をはじめ10のモデル地区を選び、行政、研究機関、農協、リーダーシップ等が果たした役割を様々な観点から分析し、地域振興に必要とされるエッセンスを抽出しようというもので、開発途上国の研修員が住む彼等の町を発展させるヒントになればと北方圏センターに調査をお願いしていたのが、このほど完成しました。これを英訳し途上国に送れば、同じ問題を抱える途上国の方々にとって大変役立つし、反響も非常に大きいものになると思います。実際、滝川市ではマラウイの野菜栽培の研修員を昨年に引き続き今年度は２名受け入れて頂いていますが、滝川の方々が現地を訪れ彼等と交流を深めることによって、現地の道路にTAKIKAWAの地名が付けられることも夢ではありません。

今後も北海道から提供し得る途上国のニーズにうまく合った技術を再発見しつつ、新たな研修コースを発掘・形成していくことが重要です。こうした移転技術の再発見は、途上国側の開発のみならず、提供する側の発展にも少なからず寄与するものと思われます。特に当地北海道は、130年の短期間に横断的に総合開発を行った地域開発のノウハウがあり、当センターでは「伝えよう、大地を拓いた北の技術！」のキャッチフレーズのもと、北海道発の新たな研修コースが発掘されることを大いに期待しています。

さらに、2002年から「総合的な学習」が小、中学校に本格的に導入されることから、国際理解や環境問題を含む地球的規模を切り口として各学校の先生方も前向きに取り組んでおられます。従って、身近にいるJICA研修員を学校に招き、生徒と交流させたいとの要望が沢山あります。残念ながらこれまで研修員は平日は研修を受けているので、日程の調整がつかず全ての要望に応えられませんでした。しかしながら、本年度は14研修コースを近隣で、４コースを日帰り可能な範囲の学校とし、道教育庁及び札幌市教育委員会との間で調整し、道及び札幌国際理解研究協議会の協力を得て日程調整して頂くことになりました。また、

教員の方々に対しては地元の先生の協力を得て、来年１月を目処に開発教育指導者研修の開催に向けて取り組んでいます。また、図書資料室には開発教育の図書を備え付けているので、興味のある方は平日の９:30～19:00、土曜日10:00～16:00に（日曜、祭日は休み）気楽に立ち寄って欲しいと思います。

なお、学校訪問やセンター訪問には、要望に応じ、専門家や青年海外協力隊員といったJICA事業のOB･OGやJICA職員による対応を行っていますので、お気軽にご相談頂ければと思います。

平成13年度　水道技術者養成コースの道外研修で、京都水道局本庁にて説明を受ける研修員及びJICEコーディネーター

（下斗米）　北方圏センターは、北海道から補助を受けて国際理解促進事業を実施しています。これは、地域の住民の方や小中学校生徒と研修員との交流を通して、国際理解を促進するものであり、JICAが札幌市内等において同様に開発教育支援を実施されますことから、北方圏センターとしては、それ以外の道内地域を対象として、札幌・帯広国際センターにおいては、その周辺市町村を対象に行い、またそれとは別に、道研修員等をメインに今年度は、北村、積丹町などで実施する予定です。JICAの研修員も道の研修員も年を重ねるごとに受入研修実施機関をはじめとして認知もされてきていることから、市町村や小中学校等から研修員との交流要望が近年増えてきており、北村からは10年間続けて道研修員等が招待されています。今後とも、国際交流、国際理解に意欲的な取り組みを考えている市町村等には訪問していきたいと考えております。

北方圏センターは、国際協力、国際理解のため、JICAや北海道のパートナーとして、その一翼を今後も担っていきたいと考えています。

（司　会）　北海道国際センターの概要と活動についてお聞きしましたが、今後とも国際協力、国際理解のために、お互いよきパートナーとして北海道国際センターの活動を道民に情報発信していきましょう。本日はお忙しいところありがとうございました。

LIBRARY INFORMATION

図書資料室では、JICAの資料や情報を一般の方にも公開しています！

★JICA制作ビデオ★

JICAはどんな活動をしているの？ODAって何？当図書資料室では、そんな疑問を解決できる視聴覚資料を所蔵しております。

JICA事業や青年海外協力隊の活動状況、海外からの研修員の技術研修の様子、開発教育支援などなど、映像を通して理解を深めてみませんか？

また、国際協力の現場からの最新レポート、**「地球家族～JICA Report」**の過去放送分ビデオも所蔵しており、自由に閲覧することができます。バックナンバーのリストや内容紹介はJICAホームページでも見ることができますので、ご利用下さい（http://www.jica.go.jp）。

「地球家族～JICA Report」
ＣＳ衛星放送「朝日ニュースター」にて、毎週日曜朝8:30～9:00放送

その他、「JICAについてもっと知りたい！」「国際協力に参加したい！」「協力隊員になりたい！」という方の為に、事業紹介パンフレット等も取り揃えてありますので、どうぞご利用下さい。

図書資料室内「国際協力相談コーナー」にて、JICA事業全般に関するご照会やご質問、国際協力に関するご相談も受け付けております。

国際協力事業団
北海道国際センター（札幌）図書資料室

〒003-0026 札幌市白石区本通16丁目南4-25
（地下鉄東西線・南郷18丁目駅下車、徒歩約10分）
TEL:011-866-8306　FAX:011-866-8302
E-mail:hicslib@jica.go.jp

OPEN：月～金　9:30～19:00
　　土　10:00～16:00
CLOSE：日曜・祝日、年末年始など

★どなたでも自由に閲覧できます。
（原則として貸出はしていません。）

［蔵書数］
・一般図書（和書）　2,027　冊
　　（洋書）　1,822　冊
・JICA刊行物　960　冊
・視聴覚資料　271　点
・逐次刊行物（和雑誌）27　タイトル
　　（洋雑誌）16　タイトル